

1 研究主題 自分の考えをもち意欲的に表現する児童の育成

2 研究の概要

第1回 活動計画立案

第2回 研究主題にかかわる部員の実践情報交換会

第3回 講話「算数科における学力の育成」

講師 下越教育事務所 指導主事 石塚 文弘 様

第4回 授業研究にかかわる指導案検討会

第5回 授業研究会

・3年「大きな数」 長谷川 由佳 教諭 (三川小学校)

・指導者 阿賀町立日出谷小学校 校長 阿部 桂介 様



3 研究の実際

(1) 第3回 (6月10日) 講話より

算数科の学習において、思考力・判断力・表現力を育成するための指導のポイントとして以下のことについてご講話いただいた。そして、ご指導いただいたことから、各部員が自分の授業を振り返り、改善点を自覚することができた。

- 言語活動を充実させ、考えを伝え合う活動を積極的に取り入れる。
- 習得したことを活用する学習過程を考えていく。
- 考えの交流で、子どもの考えをつなぐ役目と追体験して理解させる役目を果たす。
- 考えの交流の後にノートにまとめを書くだけでなく、適用問題を解かせる。
- ノート記述で友達の考えの特徴や数学的な考え方のよさと自分の学びを実感させる。

(2) 第5回 (9月9日) 授業研究会より

本時の課題は、「答えが一番小さくなるひき算」について考えることだった。前時で「答えが一番大きくなるたし算」について学習した考え方を参考に、子どもたちはワークシートと数カードをもとに、答えが一番小さくなる式を探していった。初めは繰り下がりのない式を作っていた子も、授業者の揺さぶりと、ペアや全体での話し合いから、「繰り下がり」のある式を立てることで、より小さい答えになることに気付くことができた。

研究協議会では、以下のような成果と課題が挙げられた。

- ① カードやワークシートは、一人一人に考えをもたせるのに有効である。しかし、早い段階から「どうすれば答えが小さくなるか」という視点に立たせ、「繰り下がりを考えれば小さくなりそうだ」という見通しをもたせてから自力解決させた方がよい。
- ② ペアや全体での話し合いでは、「何を考えてこの数字にしたのか」や「数が小さくなる秘密はあるか」等について、考えの根拠を明らかにさせるとよい。多様な考えを比較させることから、小さい答えを導き出すための秘密について考えさせるように話し合いを進め、考えの深まりにつなげていくことが大切である。
- ③ 子どもは数字と数字の間の差のイメージをもちにくい。数直線やテープ図を使って数字のイメージをもたせることも必要である。

4 成果と課題

研究主題に沿った今年度の研究により、「自分の考えをもたせるための手立て」や「考えを深めさせるための手立て」のあり方について研修を深めることができた。また、ノート記述の内容やノート指導のあり方についても学ぶことができた。これらのことを通して、授業における教師の役割と意図的な働きかけの重要性を再確認できたことは大きな成果と言える。

阿賀町は学校により指導形態(複式、TTなど)が異なる。今後は、その点も考慮し、部会で取り上げる内容をさらに精選し、より意義のある研修にしていく必要がある。